

中齋塾 東京フォーラム  
平成 26 年度 第 1 回講話

平成 26 年 1 月 11 日  
於 湯島聖堂

昨年はお世話様になりました。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。  
今日は順序をちょっと変えて、いつもの恒例の質問をお聞きするのは最後に致します。

**紹介書籍**

『佐藤一斎 一日一言「言志四録」を読む』渡邊五郎三郎監修 到知出版社

最初に『佐藤一斎 一日一言「言志四録」を読む』ですが、これは渡邊先生から戴きました。良い内容が色々と書いてありますので、回覧致します。

渡邊先生が書かれているのは、心の奥底にわだかまりがあつて塞がっていると、どんな考えも全て誤ったものになってしまうという文章を今味わっております。

**基本哲学**

中齋塾フォーラムの基本哲学は「知足」でございます。知足は何度も申し上げておりますように、欲張らない・ほどほど・あるがままを受け入れると申しております。今、私は「あるがまま」を受け入れる心が大事であろうと思っております。

「あるがままを受け入れる」と申し上げていたのを、今年は「あるがままを受け入れるしかない」と、そう感じるようになりました。そうすると、あるがままを受け入れるには、視点が広がらなければいけないと思っております。

「あるがまま」を「あるがまま」に受け入れるには、視野が広がる必要がある、それを受け入れる心の余裕、ゆとりも要ります。

物事をあるがまま受け入れるためには、相当な情報を仕入れておかなければなりません。知識を増やしておけばそれが「あるがままを受け入れる」時の、心の礎になるという感じがしています。あるがままを受け入れるしかないと思う。そこから「知足」、足るを知るといふ心が生まれてくると思っております。

**漢詩三選**

昨年の「安岡先生三十年祭」の時に、石川忠久先生の送迎を東京フォーラムの幹事にお

願いをしました。忠久先生との行き帰りの中で、「日本を代表する漢詩、三つを教えてください」とその幹事が言われた。その後、忠久先生にお会いしましたら、忠久先生も面食らったみたいですね。お会いして「三つ代表するものと言われたけれど、本当にいいですか」と聞いたら、「困りますね」とおっしゃっていました。

「言われたから、その時浮かんだもので答えたのだが、真剣になって考えると、やっぱりその三つ以外にも沢山あります」という返事でした。

その時の三つは、管茶山「冬夜読書」、広瀬淡窓「桂林荘雜詠諸生に示す」、それから頼山陽「泊天草洋」です。

この中で先生が一番力説された漢詩が、頼山陽「泊天草洋」でした。

日本を代表する漢詩ナンバー1は、頼山陽の「泊天草洋」であると先生は考えておられる。なぜなら絶句であるものを六句の古詩にした。

唐の時代に古詩は完成したものだから、李白も王維も作っているけれども、頼山陽はそういう世界にいるというであるから、頼山陽の漢詩の力量は素晴らしい。王維と李白に並んでいると読めるとのことです。

また中国には海がない。中国にはない海を詠っている。こういうものは日本の作品として一番素晴らしいので「天草洋に泊す」頼山陽は、日本を代表する漢詩である。

こういう考え方を、幹事はよく忠久先生から引きずり出していただいたと思います。感謝ですね。

## 論語の視点

今日は、小此木会員に読んでいただきましたが、これは何回ぐらい練習しましたか？

ー毎朝読んでいます。

イメージは浮かびますか？

ーイメージは色々と浮かびます。インターネットなどで調べて、どういう意味だろうか、どういう展開かなど、色々と併せてみています。

非常に結構な読み方をされています。心の中に染み込んできて、腑に落ちると読み方が変わります。

## 顔淵 12

【一五】子曰く、博く文を学び、之を約するに礼を以てせば、亦以て畔かざるべきかな。

孔子が言うには、学ぼうとする者は、たくさん書籍を読まなければいけない。自分の知らないものもよく読んで、色々な学者の説を聞いて御覧なさい。その上で自分の考えをまとめて、ひとつだけのもの見方で分かったように思うのは、ちょっと困る。とにかくこ

こは、たくさん本を読むように孔子が言っていると思えば良いでしょう。

「之を約するに礼を以てせば」は、理解するのに礼というものの考え方で考えてみましょう。自分なりに腑に落ちる。「約する」は、統一するという言い方をしますが、自分なりに腑に落ちる・納得する・悟ると考えていただければ良いでしょう。

論語の中で「七十にして心の欲する所に従えども矩（のり）を踰えず」という部分があります。

自分の思うがままにやっても、世の中の規範に背くことは無いであろうとありますが、何のために学ぶのか、自分が学ぶのは何故なんだろうと考えてみましょう。

ここを良く考えてみると、今の学者は何で学んでいるのか、政治家はきちんと学んでいるのかを考える。そういう風にここを理解していただくと良いでしょう。

**【一六】** しゅうわ子曰く、くんし君子は人の美を成し、ひと人の悪を成さず。しょうじん小人は是に反す。

君子と小人を対称にしています。

君子は、立派な人物が良いことを進める時には手助けをする。「人の悪を成さず」は、悪いことをやっている人には、応援しない。良いことをやっている人を応援しようじゃないかと、我々は心の底からそう思います。「小人は是に反す」は、心の狭い人はどうしても違うことをしてしまうものです。

ちなみに私、亡くなった友人にかなりのお金を貸したことがあります。その頃、考えてみたら私も貸したものに利息をつけようと一時期考えたことがありました。でも相手は、どうにもならなくて姿を消してしまいました。最終的には本人と話しをして「これはあなたが返せるだけでいいですよ」と手を打ちました。その友人と別れる時に「これで私は世間には顔を出せないし、山にでもこもって暮らすから」と言い、それで私が言ったのは「お互い80歳ぐらいになった頃には、笑って話せるようになるから、80歳代になったら会おう」と言って別れました。

「小人は是に反す」だから、自分自身が立派な人物になろうと思ったら、あまり利は貪らないほうが良いと感じます。どうしても貸したものは返してくれと誰でも思うのだけれど、貸した時は帰ってこないと思って貸したほうが良さそうだなとその時、身体にしみ込みました。

**【一七】** きこうし季康子 まつりごと政を こうし孔子に問う。 こうし孔子 こた対えて曰く、 せい政は せい正なり。 し子 ひき帥 ただいるに ただ正しきを もつ以てせば、 たれ孰か あえ敢て ただ正しからざらんと。

孔子の映画『孔子の教え』が上映されました。私も勧められて見ました。皆様はいかがですか。見ていない人のために少々話すと、世は乱世の時代でもあり、孔子が周辺の国々を弟子と共に放浪していく中で、私の後を継いだら孔子を登用しなさいという遺言のもと、季康子が孔子を登用したという背景があります。映画を御覧になると、そういう経緯が出てきましたので、そこら辺が腑に落ちます。

季康子が政治の要諦を孔子に聞きました。孔子は、政は正しくなければいけないと答えました。

そういう点で考えると、今回、都知事選が始まりますが、なぜ細川護熙元首相が出馬するのかと思います。前都知事は 5 千万円借りて説明ができないで辞任するわけです。細川元首相が総辞職したのは、税金を掛けようとしたら四面楚歌になったからみたいなことを言っていたんですが、あれは何のことはない佐川急便から 1 億円を借りて説明がつかないから辞任した。やっぱり総理大臣の方が都知事より借る額が大きかったかと思いますが、前に自分がお金を借りて説明できない人が、何故また出馬するのかと思います。

「政は正なり」政は、正しきなりということだが、あの人は正しいかと考えてみよう。おかしいな退任をした自分でも、それなりに説明をして、筋を通しているのだと思うので、復活しても良いかもしれない。そう考えたのでしょうか。しかし考え方がおかしいと思います。ここはそう読みました。

「子 帥いるに正しきを以て」は、孔子が季康子にアドバイスをしているところです。ここで孔子が、季康子に自分の身をきちんとし利益を貪らずに、世のため人のため仕事をするのであれば、国民があなたに対し反対する筈がありません。みな貴方についていくでしょう。

貴方は自分の利得をもって世に立っているから、自分の身を正しなさい。それが先であり、政治の要諦は身を正しくすることであるとアドバイスをしていると読んでください。

論語を読むのであれば、現在に置きかえる見方を勉強しましょう。学ぶとはそういうものです。学べば学ぶほど自分が磨かれる・正しくなるという視点で考えてください。

今日、初めてお出でいただいた会計士さんと税理士さんは世の中のためになることをしている。役に立つことをやる。またそう思わなければやっていられない仕事ですね。

自分の利益だけを考えたら、やらないほうが良い。世のため人のためになると思えば、一生懸命されるが良いでしょう。そういう内容の職業だと私は思います。弁護士さんも同じです。

## 今年の干支—甲午（こうご・きのえうま）—

加藤常賢先生、白川静先生、簡野道明先生、安岡先生と各先生方が解説はされていますので、読んでおくと良いと思います。甲午（こうご・きのえうま）の甲は、鎧。午は、背く。

今回、お配りした季刊誌『知足』に今年の干支について色々書いておきましたが、私は昨年の季刊誌『知足』新年号に「平成 25 年から平成 29 年までの 5 年間は黎明である」と書きました。

今年の平成 26 年は、「殻を破って新しい勢力が芽を出すけれど反対勢力があり、なかなか伸びていかない伸び悩みの年である」と書きました。これは訂正致しません。昨年と同じことを感じています。今年は判断、決断に苦しむ年。問題が多く、その判断をどうするか決断するには、なかなか困ることが多いと思います。

そうしますと私が思うことは、判断・決断に困り苦しむ時は、原点に戻る。なぜ自分は、そうしたいと思ったのか、なぜ悩んだのかという原点を、今年はまだ一度考え直していただきたいと思います。

何故そう思い、それを思ったことは、正しいか正しくないか。先ほどの論語で「政は正なり」だから、自分はどうやって生きようと思ひ、考える。自分は何故この職業を選んだのか、立志は何だったのかを考え、その原点に照らし合わせて悩んでいることについての答えを出されると良い、そう考えます。干支はそのようにお考えいただいて、今年は特に悩んだり苦しんだりすることが増えることでしょう。

そうすると今年 1 年間、どういう動き方が見えるか。昨年書いたものから見ても、物価は上昇するが収入が増えないで家計は苦しくなる一方でしょう。税金の部分では、消費増税は決定事項になりましたが、これはもうドンドン進むでしょう。消費増税 8%は当然決まった。10%も、その形で進むでしょう。だいいちお金が国に無いのですから。借金 1 兆円を越しているという話ですが、とてとても 1 兆円どころではないと思います。会社が倒産するときは、ふつう借金は 2 倍あります。国家だって同じですから、更に 1 兆円ぐらいの隠れ借金はあると思います。

参与を引き合いに出して申し訳ないのですが、昨年暮れにお会いしました。ちょうど税理士さんが年間のまとめをしているところにぶつかりました。参与と 30 分位ならという事でお会いしました。そしたら開口一番「うちの会社は生かされていると税理士さんが言った」と参与は話してくれました。ふつう税理士さんはそういう科白を言いません。会社は創業以来、倒産していてもおかしくないことが何度もあるが、それが現在まで生き延びていることは不思議で、苛酷な試練が何度も起きているのにも関わらず、これから発展しそうに見えるので不思議だ。これは何か目に見えない力が参与の会社を生かしてくれている。生かされている会社だなと税理士さんが言ったそうです。税理士さんがそういう事を言うのは、磨かれて相当な力量がないと、そういう発言はできないと思います。私も初めて聞

きました。

### 国の懐が豊かでないと、目に見えぬ形であらゆる所で増税する

今年は会社が、どんどん倒産するでしょう。目に見えない形で税金は、どんどん取る。

例えば、介護保険。私はちょっと不思議に思ったのですが、97歳の母が介護保険のお金を払っています。年一回の支払いにつき6万ぐらいしか貰えない人間から、介護保険を年金から天引きで取っています。おかしい国だなと思います。なおかつ介護保険を使おうと思うと40歳になれば介護保険を使う資格ができないんですね。介護保険を受けようと思って行政に支援を要請したら、30代の方は介護保険の対象外ですから駄目ですと門前払いでした。おかしい国ですね。

生命保険も実際に適用申請の申し込みをしようとする門前払いをするルールがありました。医者にかかり高額医療費を請求しようと思えば、請求しますと請求できるものも内容によって分かれています。ましてその家族で収入の多い人は門前払いです。いくらかは当然出ますが、高額医療もルールがあって、ここから先は駄目ですという細かい規則が、かなりできていました。

厚生年金や健康保険、そういったものを考えると、国が1兆円以上の借金があるから、ない袖は振れぬということで目に見えるもので色々ルールを作っていました。

一昨日、眼医者さんに行きましてね、おやおやと思ったのですが「健康保険証をお持ちですね」と言うので「はい、あります」答えましたら、「お出してください」と言うから「どうして出さないといけないの」と聞いたら「必ず見せていただくことになっております」と若い女の子が答えるから「この人はお金が払えるかどうか確認するのかね？払えない人は駄目だということで、払えるかどうかのチェックをしているの？」と聞いたら「はい、そうです」と、…普通は答えませんがね。私は健康保険証の提出を求められると、その都度いろいろと聞きますが、いろいろ訳の分からない答えが返ってきます。20代前半の若い子で、やっぱり先生から言われていることを、きちんとする人が出てきたから、まあ素直でよろしいと思えば、それ以上は聞きませんでした。

私、年金は頂けないのですが、この間その資料が届いたのでよく見ていたら、個人住民税と書いてある。何だこれかと思えば、なぜ年金から個人住民税なんて取るのかと問い合わせをしてみたら、住民税を払わない人が増えているので、住民税を問答無用で天引きする仕組みにしましたとのこと。住民税を普通に払っている人は普通に取っているから問題は無い。市民税とか県民税です。日本国に住んでいる人で、住民税を払っていない人は年金なら問答無用で取れるから、そこから差し引く仕組みを国が作って取っています。こういう言い方ではなく、もっと柔らかい表現ですけども、そういうことかと聞いたら「はい、その通りです」というふうに専門家が答えました。ですから、これからは国家はどんどんお金を取るでしょうね。

収入も200万、250万、300万それから500万、750万、1千万と色々な省庁・官公庁が、

その人の収入は大体これ位だから、ついでには税金を取りましょう、控除しましょうと分けています。収入も見ますと、どうも 200 万というのはボーダーラインです。

国は生活保護の人達の支給額を昨年引き下げました。生活保護の人達の金額を下げた理由を聞いてみると、生活保護の人と低所得の人を比べてみたら、低所得の人の貰うお金のほうが生活保護の人と比べて低い。生活保護の人の方が、たくさんお金を貰っている。これでは不公平であるという理由で引き下げたといいます。物価に対してスライドしてゆく考え方からも、これは引き下げなければならない。ルールを決めたから、あと国民感情を意識して引き下げますということで、国民に対して国が出すお金は、どんどん減らしていきます。逆に国が国民から貰おうとしているお金は、増やしています。これで家計が苦しくならないわけが無い。日本の国から逃げ出そうという人が増えて当たり前であると感じます。

アベノミクスは、こういう状況下ですので伸び悩みになるのは当たり前です。

安倍さんの三本目の矢が成長戦略ということです。今回アフリカに仕事を増やそうという人を引き連れて外国へ出かけます。企業が儲かるように、それでお金を賃金として払って貰うような動きをしています。これは良いことですが、ただ大企業ぐらいまでですね。中小零細にまで、その恩恵はいかない。

大企業は、アベノミクス大歓迎、消費税も結構とやっています。消費税も大歓迎というのは、上がった増税分、特に輸出で稼いでいる大企業は、その増税分が返ってきます。大企業が潤うに決まっています。だからトヨタ労組が、ベアを意気軒昂で申し込むのは当り前の話でしょう。

そういう状況下だから大企業は還元できる。ただ、中小零細また個人企業は、恩恵はあまりありません。したがって国は疲弊していく。伸び悩みというのは、当り前のことだと思っています。だから自給自足しなければいけないと感じます。

今年の干支から見えるものは、そういうものです。新しい動きをよく視野に収めて、自給自足それからお互いが苦しくなったときに、即座に支援対応ができるような友人知人を増やしておく必要がある。パイプを太くしておく必要があると思います。

## 時事評論

『知足』に書きましたが、一触即発という言葉が、今年は普通になると感じます。なぜならば中国と戦争が起きる危険性が増しているからです。

今朝の産経新聞にも出ていました。産経新聞 13 版で「アメリカ、艦船全般へ拡大警戒」中国のやっていることは非常によろしくないの、中国に対して色々不快感を持っている。中国とアメリカの間でジャブの応酬をしている。これが一触即発の危険性を帯びている。

またロシアも韓国も北朝鮮も引き金を引く危険性は増しています。1番高いのは、私は中国だと思っていますが、ただ、とんでもない形で北朝鮮が起こす危険性がある。世界恐慌が起これば、アメリカが引き金を引く危険性が高くなってきています。

アメリカは最近の新聞を見ますと、オバマさんが弱いこと弱いこと。今朝の産経新聞でオバマ大統領が演説で一度ならず二度も「米国は世界の警察官ではない」(昨年9月10日)と強調し、世界に波紋を広げているということです。

それから自然災害と書きましたが、上毛新聞(1月10日)の小さな囲い記事で、北米初のH5N1型に感染してカナダ人が亡くなりました。あれは確か6割の致死率だったと思います。鳥インフルエンザウィルスの死亡者は世界各地で広がっている。

その辺を考えると、一触即発という危険性が非常に増す年であると思っています。昨年の動きはそのまま継続してさらに酷くなる。そう思っています。

自然災害を含めて新聞、マスコミ等が世論を誘導していく方向性の危険なことをずっと考えていますと、先ほども書きましたが、今年は相互支援協定、個人ごとの支援協定を結んでおく必要がある。

食べ物の確保・水の確保をしておかなければならないと強く思います。私はインフラが壊れた東日本大震災と同じようなことが、また起きると思っています。

最近、自宅を引っ越しましたが、その中で井戸を2つ掘りました。井戸水を飲めるようにしたし、その井戸水で風呂にも入れます。しかし今朝、風呂に入ろうと思っていましたら、井戸が凍っていて風呂に井戸水が入りませんでした。井戸と水道の両方の風呂ですから風呂には入れましたが、こういう事もあり得るということで、いろいろ手は打ってあります。

東京都は「1週間は都の支援は無いと思ってください」と公表していますから、関東一円似たようなものだと思っています。どうぞ、そこら辺を考えていただくと良いでしょう。水と食料は1週間分用意しておいたほうが良いと思います。

以上が今年の干支から時事評論に繋がった話です。もう少し他のことも申し上げます。

私は中斎塾フォーラムのメンバーにお出ししているもので、「新年を迎えて」と書きましたので、ご覧になってください。

私が良いなと思うのは、誰かが発信するとそれに対して答えを書き入れる。それに対してお互いの意見交換をする。

私は1月3日に「新年を迎えて」を書いています、それに対して色々ご返事いただいています。その中で御紹介したいと思う御意見が2つありました。

1つは國分会員の、私に書いたものに対する答えです。

「本年は新たな地平に向かってスタートする覚悟です」という言葉でした。これは大変な言葉だなあと思いました。地平というところに引っかかりましたし、氣になりました。



私も地平というのは、天と地が交わる所、地平という言葉から國分会員の考えを思ったのは、遙か彼方に見える地平線に向かって歩きますよ。言い方を変えると、私が歩いて行く後に道ができます。そういうつもりで私は今年スタートしますと、そのように受け止めました。國分会員の書かれたものを、どうぞお読みください。

もう 1 つは関口幹事が、頻発する地震におびえて思考が先に進みません。海拔の極めて低い地域なので津波や堤防決壊が起これば、泉鏡花の夜叉ヶ池状態になります。体力がまったく無くて、今まで何を学んできたのかと情けなく思います。年の初めにクリアしておきたいと思いますので、気持ちをどのように持ったらよいのか、ご教示いただきたく宜しくお願い申し上げますと書かれていました。

私は、それに対して「死ぬるときは死ぬるがよかろうと思うことでしょうか」と答えました。

これはどうぞ御自分でお調べください。有名な方が、その時の覚悟を後世の方に書き残している部分です。私はそれにプラスして、自分のあらゆる力を出し尽くしたら、あとは天に全てを委ねるのが良いと考えています。天というのは、人知及ばない天地自然の源。根源的な存在です。

言い方を変えるとサムシング グレート (something great)。これは人がいくらじたばたしてもちっぽけな力しかないと観念することで、新たな世界が開けると考えています。これは 3 日の時点で思っていた私の実感です。ただ 3 日にそう思いましたが、7 日にまた変わりました。読んでいない方がおられたら読むように薦めてください。書いた人との交流がどんどん進みます。

## 恒例の質問

・今年に入って、嘘をついたか否か。嘘をつくことが、今年に入って少なかったかなと思う方

・良い日が比較的続いたと思う方

・有難うと言い、有難うと言われることが続いている。

・健康法を毎日実践している方

—毎日実践していないと、効果がなくなってしまうですね。

・夕べ寝るときに、明日のことを過去形でイメージした方

—何人か増えましたね。

それから日頃、私が言い続けているものの具体的な事例を申し上げようと思います。

先ほど、「おめでとうございます」と挨拶をされました。申し訳ないと思うのですが、なかなか今年は素直におめでとうございますと言えない。

昨年の夏頃から娘の具合が悪くなりまして、大晦日は具合がさらに酷くなって、先生が自宅に来ていただいた。看護師さんから表現は違うけれど、こういう言い方でした。今日、自宅で看取るか病院に入れて緩やかな死を選ぶか、どちらかを選んでください。私は自宅で看取ることを選択しました。その時考えたことは、判断に苦しんで苦しんで悩みました。でも原点に戻って考えてみたら、なぜ自宅で看取ると言ったのか。それはもう望みが無いと思ったからでした。でも、よくよく考えてみたら西洋医学と東洋医学の両方をドッキングして助けたい。死なせたくないと思って、フォーラムの参与で中国に強力な人脈のある方に年末、中国に飛んでいただき北京の先生が娘のための漢方薬を処方して頂いた。その経緯を考えまだ諦めてはいけない。まだまだ打つ手はあると信じ、私の思いを100%受け入れてくれる病院を探そうと思いました。前から打ち合わせをしていた総合病院は、漢方薬は受け入れません。だけれども前からお付き合いのあるところで、漢方薬は受け入れてくれるし西洋医学もきちんとしてくれる。そこの先生を元旦に電話で出先へ連絡し帰ってきていただいた。そして即座に入院させてもらいました。そういう状況なので私は今助かると信じています。

西洋医学は精一杯よくやってくれています。東洋医学には3つかけています。

漢方薬、期待しています。それから氣の先生が静岡から氣を送ってくれています。これにも、とても期待しています。最後に私は娘がそういう状況になってから、親として出来る事がないか、必死に調べて必死に考えて家内と一緒に、氣を使って素人でも治療できる、手かざし・手あて療法というのを教わり毎晩やっています。夕べもやりました。

ですから東洋の智慧の三つ。それを合わせて必ず回復すると信じています。

判断に困ったときは原点に戻る。そして、あるがままの状態を受け入れるというのは知足。あるがままの状態を受け入れるというのは恨まない、怒らないということです。

ただ悲しい、切ない。でも信じる。今は、そういう心境です。

時間がきました、終わります。有難うございました。